

## 活用力を育てる理科学習

～6年 『ものの燃え方』の単元を通して～

### 1. 主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申の中で、理科の改善の基本方針について、基礎的、基本的な知識・技能を実生活で活用できる力を育てる必要があるとされた。

一般的に、観察や実験が好きだから理科が好きという児童は多い。しかし、理科で学んだことを実生活に結びつけられず、生活に役立てられる児童は少ないと言われている。理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるためにも、『理科の授業で勉強したことがこんなところで役に立つんだ』と気づかせたい。

そこで、6年『ものの燃え方』の単元を実施し、活用力を育てる場面を意図的に設定する。この単元で学習する、基礎的・基本的な知識・技能が実生活に生かされていることを意識し、進んで活用する児童を育てたいという思いのもと、このテーマを設定した。

### 2. 研究仮説

ものが燃えるために必要な三つの要素をおさえ、活用問題を解く場面を設定していけば、活用する力が育つだろう。

### 3. 研究の内容

(1) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する場を、意図的に設定した指導計画を立てる。

(2) 活用力を育てるための手立てを考える。

（基礎・基本となる知識の定着 ， 掲示物の工夫 ， 言語活動を取り入れる）

### 4. 研究のまとめ

○ものが燃えるために必要な三要素『酸素・燃えるもの・熱』をしっかり理解したことで、活用問題にスムーズに取り組むことができた。火が消えた理由を考える問題では、『酸素・燃えるもの・熱』の言葉を使って消えた理由を説明できた。

○活用問題を意図的に設定したことで、既習事項や生活経験を活用しようとする意識できるようになった。他の教科でも基礎基本の知識を活用しようとする意識が表れてきた。